

会 議 録

(4 - 1)

会議の名称		令和2年度第1回春日部市下水道事業審議会	
開催日時		令和2年11月12日(木)	開 会 午前10時00分 閉 会 午前11時00分
開催場所		庄和地区公民館 2階 多目的室	
議長(会長等)氏名		小保方 敏美	
出席者	委員氏名	(出席人数:7人) 小保方 敏美、田口 真喜夫、作山 康、 石原 保、小島 恵子、佐藤 直子、酒巻 由紀子	
	説明者 その他	(出席人数:1人) 下水道課下水道管理・施設担当主幹 松本 正彦	
	事務局	(出席人数:12人) 建設部長 会田和彦、建設部参事兼下水道課長 新井義宣 経理担当課長 染谷利夫、河川課長 浜村三博、下水道業務・経理担当主幹 金澤正人 下水道管理・施設担当主幹 松本正彦、河川維持担当主幹 小倉一司 下水道業務・経理担当主査 古郡大輔、下水道管理・施設担当主査 鈴木輝由 下水道管理・施設担当 海老沼拓也、下水道管理・施設担当 桐島玲 河川維持担当 東勇稀	
次第及び公開・一部公開・非公開の区分		(諮問事項) 議案第1号 春日部市公共下水道ストックマネジメント基本計画について(公開)	
一部公開・非公開の場合はその理由		<input type="checkbox"/> 要綱第3条第1号該当： <input type="checkbox"/> 要綱第3条第2号該当： <input type="checkbox"/> 要綱第3条第3号該当： <input type="checkbox"/> 要綱第3条第4号該当：	
配布資料		①第1回春日部市下水道事業審議会次第 ②座席表 ③下水道事業審議会委員名簿 ④資料1・議案第1号 春日部市公共下水道ストックマネジメント基本計画について (諮問書写し添付) ⑤資料2・春日部市公共下水道ストックマネジメント基本計画について ⑥資料3・令和2年度審議会スケジュールについて ⑦資料4・春日部市公共下水道ストックマネジメント基本計画(案) ⑧参考資料1・市民意見提出制度概要 ⑨参考資料2・春日部公共下水道計画一般平面図(汚水)(雨水)	
会議録の作成方法		<input type="checkbox"/> 録音テープ等を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープ等を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録	
会議録署名の指定		議長の指名により、石原 保 委員に決定する。	

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
事務局	1. 委嘱状交付 2. 市長あいさつ 3. 開会 ・ 審議会の成立報告 出席委員7名（1名欠席）、春日部市下水道事業審議会条例第6条第2項の規定による定足数に達しており、当審議会が成立していることを報告。 会長選出までの間、建設部長が議長を務めることを説明。
議長	・ 議事録署名人の選出 議事録の署名人については、議長の指名としてよいか。
委員	一異議なしの声一
議長	議事録の署名に石原委員を指名。
議長	4. 会議の公開 本日の議題については、非公開事項が含まれていないため、審議事項については全て公開と決定したことを報告。 傍聴人なしの報告。
議長	5. 会長・副会長の選出 春日部市下水道事業審議会条例第5条第1項の規定により、委員の互選によって選出。 会長に小保方委員、副会長に田口委員が選出され、あいさつの後、春日部市下水道事業審議会条例第5条第2項の規定により、会長が議長となる。
議長	6. 議事 （諮問事項）議案第1号「春日部市公共下水道ストックマネジメント基本計画」について
事務局	一資料に基づき説明一
	主な説明内容
	・ 春日部市公共下水道ストックマネジメント基本計画の諮問について
	・ 春日部市公共下水道ストックマネジメント基本計画（案）について
	[質疑応答]
委員	費用が豊富にあれば、施設の耐用年数で改築を行う「単純改築案」でも良いが、現実的には難しいので、今回の計画案である「両施設最適案」は理に適っていると思う。

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
委員	ポンプ場施設については、寿命により設備等の更新を行うのは仕方が無いと思うが、管路施設については、悪い所だけを直していくようにしたいが技術的にはどのような工法で改築を考えているか教えてほしい。
事務局	管路施設の改築の工法については、マンホールのスパンごとに、現在の下水道管の中に樹脂系の管を入れて更生する工法を想定している。
委員	既存のコンクリートなどの下水道管の内側に樹脂系の管を入れて、既存の管の構造を活かしながら更生する方が、古い管を撤去し、新しい管を入れ直すより安いため、費用対効果が高い。そういった技術でコストを抑えることで、掛かる費用を平準化していくことが可能になるという認識で良いか。
事務局	その通りである。
委員	今後、人口減少により、空き家などで下水道を接続する必要が無い箇所ができた場合は、改築対象から除くようにすれば少しでもコストダウンになるのではないか。
事務局	人口減少によって下水道が必要ない箇所が出てきた場合は、下水道の機能をうまく切り離すことが出来れば、その箇所については更新せずに、費用を掛けないようにしていく方法も検討できると考えている。
委員	今回の基本計画の設定期間が100年というのは長いのではないか。100年という期間でも下水道施設の機能は本当に保てるのか。今回の計画案である「両施設最適案」より、もう少し費用を掛けて期間を短くして早く改築した方が良いのではないか。
事務局	100年という設定期間については、下水道施設の中には、耐用年数が50年という施設もあり、その施設を修繕しながらなるべく長く使用し、その後改築を行い、施設を更新していく想定である。そのため長いスパンでの設定が必要になるため、100年としている。また、施設の状態を点検しながら、なるべく長く使用出来るように、必要な時に費用を掛けることで今後の費用負担を少なくするように考えている。
委員	実際にフランス、パリの下水道は何百年も前のものだが、今も使用している。また、昔は古くなった管は撤去して、入れ替えるという発想しか無かったが、先ほどの説明でもあったように、現在では既存の管の中に管を入れて更生するという技術が生まれている。今後もロボット化など、技術革新によって今よりも低コストで改築できるようになる可能性があるため、今の技術だけで全て改築しようとするとう無駄な費用を掛けることになってしまう。そのため、今回の計画案のように焦らず、現実的に掛けられる費

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
委員	用で、運用上も管理できており、技術革新があればもっと低コストで改築できる方法も検討し、さらに気象変動などによる急なリスクについても考慮しながら、今後の管理を行うというのが今回の計画案ということで良いと思う。
委員	汚水整備については、ほぼ終了しており、今後は改築がメインになると思われる。今回の計画案での総投資費用について、半分を国の補助金で賄うとして、残りの費用についてはどのように賄うのか。また、公営企業債も活用していると思うが、充当率はどれ位か。
事務局	残りの費用については公営企業債の活用を考えており、充当率は100%である。公営企業債については借り入れの趣旨が、その世代だけで負担するのではなく、下水道施設の利便性を受ける世代で長い期間で負担するという考え方であるため、今後も活用しながら計画を進める予定である。
委員 事務局	雨水のポンプ場施設について、今後新築の予定はあるのか。 現在、雨水のポンプ場施設については8施設である。今の下水道計画上は新築の予定は無いが、今後ゲリラ豪雨などの状況を見ながら、雨水の管路施設の整備と併せて必要性について検討していく考えである。
委員	ゲリラ豪雨による内水氾濫については、対策の検討が必要だと感じている。河川関係の計画との整合性も考えながら検討してほしい。また、雨水の施設についても古くなっている施設があると思うので、改築等についても頑張ってもらいたい。
議長	他に質問が無いようであれば、本議案については、市民の意見を聞き、更に審議いただく内容となっているので、継続審議としてよいか。
委員	—異議なしの声—
議長	「異議なし」と認め、議案第1号は継続審議とし、本日の議事を終了する。
事務局	7. その他
	・ 審議会スケジュールについて
	・ 建設部長あいさつ
事務局	8. 閉会
	・ 閉会宣言
	—散会—

議事の顛末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和2年12月8日

署名者の職・氏名

委員

石原 保（原書は自署）